

「県民健康調査」甲状腺検査 二次検査における穿刺吸引細胞診（細胞診）
の検査併発症症例について

令和6年8月2日

二次検査における細胞診検査併発症(*)並びに検査併発症後に再受診あるいは治療を要した事例について把握した結果は下記のとおり。

(*)24時間以上持続する疼痛、治療や経過観察を要した（再）出血、嘔声、穿刺直後の急激な頸部腫脹、甲状腺クリーゼ、創部感染症、気胸、気管穿刺

記

1. 対 象

医大の他、細胞診検査を施行した県内5、県外21の医療機関等に対し調査を実施。

2. 結 果

検査併発症は0件

※参 考

細胞診受診者数は以下のとおり（R6.3.31現在）

(人)

検査区分	合 計
先 行	547
本 格 1	207
本 格 2	79
本 格 3	91
本 格 4	93
本 格 5	7
25 歳節目	49
30 歳節目	16
合 計	1,089